

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/06/01

英米の経済イベントが大きなリスク

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	上下どちらにも大きく動く可能性 予想レンジ: 77.000 ~ 83.000 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	RBNZの決断と声明内容は? 予想レンジ: 71.500 ~ 77.000 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	リスク回避ムードに転換なら最弱通貨に 予想レンジ: 6.500 ~ 7.300 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

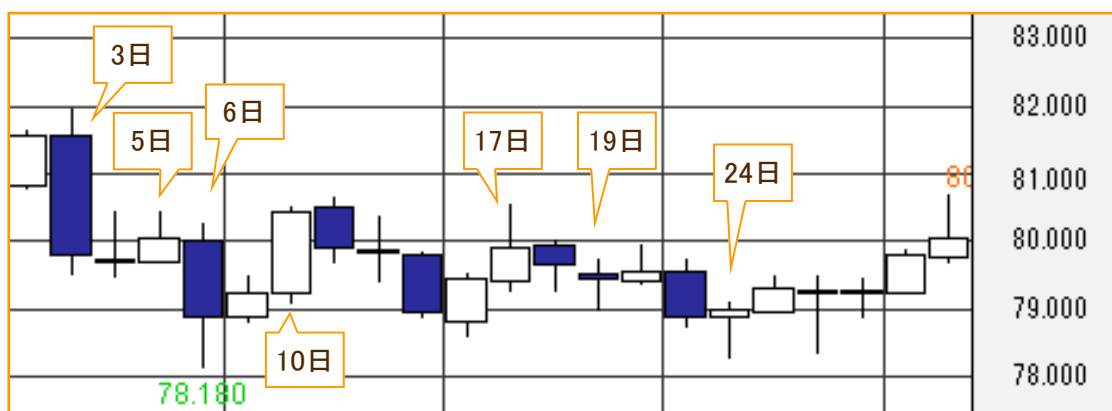
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 6月の推移

AUD/JPY

5月の豪ドル/円相場は78.180～81.949円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.0%の下落(豪ドル安・円高)となった。

月初、市場予想が利下げと据え置きで割れる中で、豪中銀(RBA)が利下げを決定した事、RBAの四半期金融政策報告において、インフレ見通しが下方修正された事などを背景に豪ドル/円は下落。前月末の日銀の金融政策据え置きからの円買いの流れもあり、6日には78.180円の安値を付けた。その後は、本邦要人からの度重なる円高牽制発言などに下値を支えられたが、豪州の金利先安観が払しょくされない中で積極的に買われる様子は見られず、相場は低迷した。また豪ドル/米ドルは米国の早期利上げ観測の強まりもあって約5%もの下落となっており、これが豪ドル/円の重石となった可能性もある。



## 四本値

OPEN	80.856
HIGH	81.949
LOW	78.180
CLOSE	80.065

3日	RBAは政策金利を1.75%と、従来から0.25%の利下げをすると発表。声明では、「インフレ率は極めて低く、最新データも予想外に低かった。雇用コストの伸びは著しく低調で、世界的にもインフレ率は低い」「住宅市場は監視措置の効果で融資基準が厳格化されており、価格上昇圧力は弱まりつつあり、現時点では利下げが住宅市場にもたらすリスクは1年前より小さくなったと言える」などとした。これを受けて豪ドルは大きく下落した。
5日	豪3月小売売上高は前月比+0.4%と予想(+0.3%)を上回る結果となり、豪ドル/円は上昇。午後には一時80.438円まで値を伸ばした。
6日	RBAが四半期金融政策報告において、「緩和政策は低インフレ見通しと住宅市場の鈍化に基づき実施」「2016年末時点の基調インフレの見通しを1.00-2.00%へ(従来2.00-3.00%)、2017年末時点点を1.50-2.50%へ(従来:2.00-3.00%)、2018年6月時点点を1.50-2.50%(従来2.00-3.00%)へそれぞれ下方修正」と発表すると、豪ドルは追加利下げ観測を絡めながら下落。さらに、米4月雇用統計が弱い結果となった事を受けてドル/円が急落すると、豪ドル/円も連れて下値を切り下げた。
10日	日経平均が堅調に推移した上、麻生財務相が「為替が一方向的に偏った状況が続くと介入すると言っている」「(米監視リストについて)日本の為替政策が制約されるものではない」などの見解を示した事も円売りに拍車を掛け、クロス円は上昇。さらにナイジェリア、リビア、カナダなど産油国で供給懸念が強まる中で原油高となった点も豪ドル/円の追い風となった。
17日	RBA議事録では「5月会合で利下げするか、さらなるデータを待つか協議した」「最近の状況は経済見通しの重要な変化の原因にはならなかった」「最近のインフレや労働コストのデータは予想よりも低かった」「豪ドル高が経済調整を困難にする」などとあった。追加利下げへの踏み込んだ示唆が無かったことで、発表後の豪ドルは上昇した。
19日	豪4月雇用統計において、失業率は5.7%(市場予想:5.8%)と改善したものの、労働参加率は64.8%(同:64.9%)、雇用者数は1.08万人増(同:1.20万人増)と冴えず、また雇用の中身に関しても、正規雇用者数は0.93万人減(前月:0.88万人減→1.00万人減)、非常勤雇用は2.02万人増(同:3.49万人増→3.57万人増)と非常勤雇用に頼ったものだった事から、豪ドル売りが強まった。ただし、NY市場に入り、ナイジェリアで武装集団の襲撃を警戒して石油積載港が閉鎖されたとの報道を受けてNY原油が切り返すと、豪ドル/円も下げ幅を縮小した。
24日	スティーブンスRBA総裁が「インフレ率が非常に低いのは事実、中銀の目標を下回っている」などと発言し、豪ドル/円は一時78.310円まで下落。しかし、その後はNY原油先物やNYダウの堅調推移を眺めて下げ幅を圧縮した。

AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	16357.10
HIGH	17251.36
LOW	15975.47
CLOSE	17234.98

## NYダウ平均

OPEN	17783.78
HIGH	17934.61
LOW	17331.07
CLOSE	17787.20

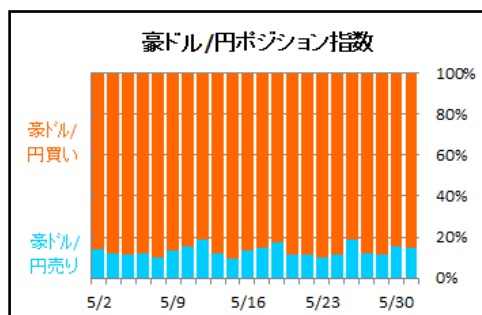
## 上海総合指数

OPEN	2940.392
HIGH	3004.418
LOW	2780.763
CLOSE	2916.616

## 豪10年債利回

OPEN	2.532%
HIGH	2.567%
LOW	2.200%
CLOSE	2.303%

## 5月のポジション動向



## 6月の豪州・中国の注目イベント

- ・1-3月期豪GDP(1日)
- ・5月中国財新製造業PMI(1日)
- ・4月豪貿易収支(2日)
- ・4月豪小売売上高(2日)
- ・RBAキャシュターゲット(7日)
- ・5月中国貿易収支(8日)
- ・5月中国消費者物価指数(9日)
- ・5月中国鉱工業生産(12日)
- ・5月中国小売売上高(12日)
- ・5月豪雇用統計(16日)
- ・RBA議事録(21日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 6月の見通し

豪州はインフレ率の低下への懸念が強く、目下のところ、市場においては「金融政策の次の1手は利下げ」という意識が根強い。ただし、7日のRBA理事会に関しては、5月に利下げしたばかりである事や、主要国株価や原油価格が堅調である上、1日朝に発表された豪1-3月期国内総生産(GDP)が前年比+3.1%と市場予想(+2.8%)を上回った事もあり、すぐに追加利下げというムードではなさそうだ。そのため、株価や原油価格が堅調で、かつ豪指標に良好なものが目立てば、むしろ5月末からの戻り歩調を継続する可能性すらある。しかし一方で、株・原油の状況が悪化すれば利下げ期待が強まり、豪ドルには一転して売り圧力が掛かるだろう。2日の石油輸出国機構(OPEC)の総会は原油先物価格の波乱要因となろう。また、6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で出される声明において6月の利上げ決定ないし7月の利上げが示唆され、主要国株価が急落したり、米ドル高→商品安、という流れになれば、利下げ観測を絡めて豪ドル/円は下押すと見る。さらに、英国の欧州連合(EU)離脱に関する国民投票(23日)に向けて、英国の離脱リスクが高まれば、これは金融市場全体のリスクオフムードを呼び、豪ドル/円には急落のリスク要因になると言える。値幅が狭めだった5月に比べて、6月は上下どちらに向かっても値幅が大きくなりそうだ。(石川)

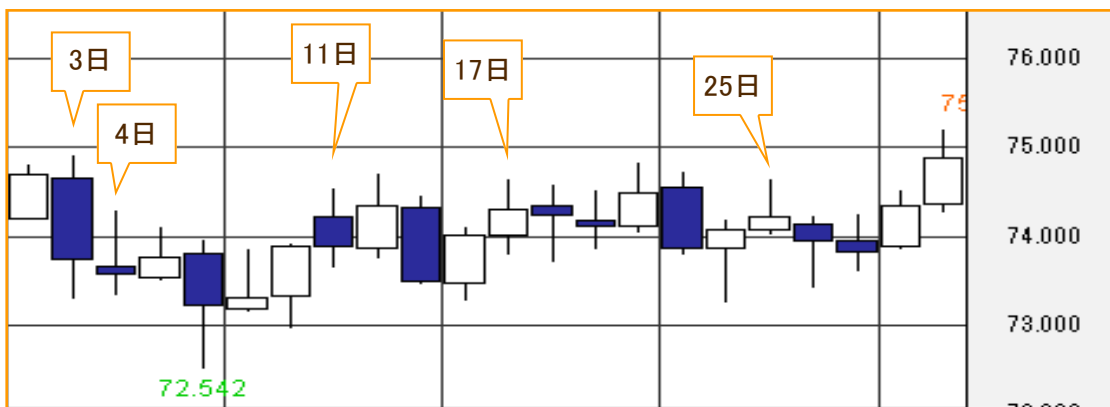
(予想レンジ: 77.000~83.000円)

## NZドル/円 5月の推移

NZD/JPY

5月のNZドル/円相場は72.542～75.192円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%の上昇(NZドル高・円安)となった。

NZドル/円は月初にNZ乳業大手フォンテラの電子入札GDT物価指数の低下や豪ドル/円が下げた事に連れて72.542円まで一時値を下げ、その後は本邦要人らによる円高牽制を受けて下げ幅を縮小。ただし、NZ中銀による利下げの可能性が意識された上、フォンテラが2016-17年の牛乳価格引き下げを発表した事などが重石となり、75円ちょうど前後では上値が重い状態。月末に本邦の消費増税延期観測を背景に株高・円安が強まると、月間としてはわずかにプラスとなったが、月を通して大きな方向感はなかったと言える。



## 四本値

OPEN	74.207
HIGH	75.192
LOW	72.542
CLOSE	74.890

3日	豪中銀(RBA)が利下げを発表すると豪ドル/円が急落。NZドル/円も連れ安となった。さらにNY市場中に発表されたNZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比-1.4%となった点が重石となって73.326円まで一時下落した。
4日	NZ1-3月雇用統計において、失業率が5.7%(予想:5.5%)、雇用者数増減が前期比+1.2%(同:+0.6%)、労働参加率が69.0%(同:68.6%)と、マチマチの結果であった。失業率の弱さを受けて瞬間的に下げる場面も見られたが、反応は一時的だった。
11日	NZ中銀は半期金融安定報告を発表。「国内の金融システムは引き続き弾力性があるが、金融の安定に対するリスクは過去6カ月でさらに高まった」「世界経済の見通しは悪化し、乳製品価格はなお低水準、住宅市場の不均衡も引き続き拡大している」「一段の金融政策措置を講じる事が適切かどうか判断すべく、需給を注視している」などとした。しかし、市場が期待をしていた住宅抑制策についての言及がなく、NZドルの売りポジションが一旦解消される動きとなり、NZドル/円は一時上昇した。
17日	日経平均が上昇すると、円が全般的に売られ、NZドル/円は上昇。ただし、74円台後半では頭を押さえられた。なお、GDT物価指数は前回比+2.6%となり、これが一時NZドル高要因となる場面も見られた。
25日	NZ4月貿易収支が2.92億NZドルの黒字と、市場予想(0.25億NZドルの黒字)を大きく上回った事で、NZドルは上昇。さらにその後、NY原油先物やNYダウ平均が堅調に推移する中でNZドル/円も74.60円台までジリ高となった。しかし、フォンテラが2016-17年の1kgあたりの牛乳価格を4.25NZドル(前回:4.50-4.80NZドル)に引き下げる事を発表すると、NZドルは急速にそれまでの上げ幅を消した。

## NZD/JPY

## 日経平均

OPEN	16357.10
HIGH	17251.36
LOW	15975.47
CLOSE	17234.98

## NYダウ平均

OPEN	17783.78
HIGH	17934.61
LOW	17331.07
CLOSE	17787.20

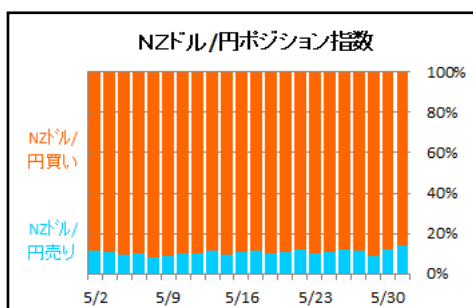
## 上海総合指数

OPEN	2940.392
HIGH	3004.418
LOW	2780.763
CLOSE	2916.616

## NZ10年債利回

OPEN	2.844%
HIGH	2.883%
LOW	2.561%
CLOSE	2.624%

## 5月のポジション動向



## 6月のNZの注目イベント

- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(9日)
- ・1-3月NZ経常収支(15日)
- ・1-3月期NZ・GDP(16日)
- ・5月NZ貿易収支(27日)
- ・5月NZ住宅建設許可(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 6月の見通し

NZ中銀が5月に発表した半期金融安定報告の弱気な内容や、その他弱い経済指標、フォンテラの2016-17年の牛乳価格引き下げなどもあり、8日のNZ中銀理事会では0.25%の利下げを見る市場関係者が過半数を占めている。しかし、現行の2.25%に据え置くと見る市場関係者も根強くおり、どのような結果になってもNZドルは荒れる可能性がある。利下げとなればNZドル売り、据え置きとなればNZドル買いに動こう。しかし、初動の動きが一服した後は声明文が重要だ。金利を据え置いて一旦NZドル高に振れたとしても、弱気な声明で、次回の利下げの可能性を強めに示唆するようならば、次第にNZドル売り優勢に転じよう。一方、利下げを決定してNZドル売りが強まっても、当面の金利据え置きを示唆するようならば、次第に反転すると見る。もちろん、利下げ決定の上、追加利下げを示唆という事になれば、大幅なNZドル安になると予想される。

また、今月に関しては、米国の動向も非常に重要だ。14-15日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)に向けて、早期利上げ観測がNYダウ平均や商品価格を圧迫すれば、NZドルの下押し要因にもなり得る。また、FOMCで利上げが決定されたり、次回会合での利上げを強く示唆するなど、大きな動きがあれば、やはり同様に株や商品価格を経由してNZドル/円に影響を及ぼそう。(石川)

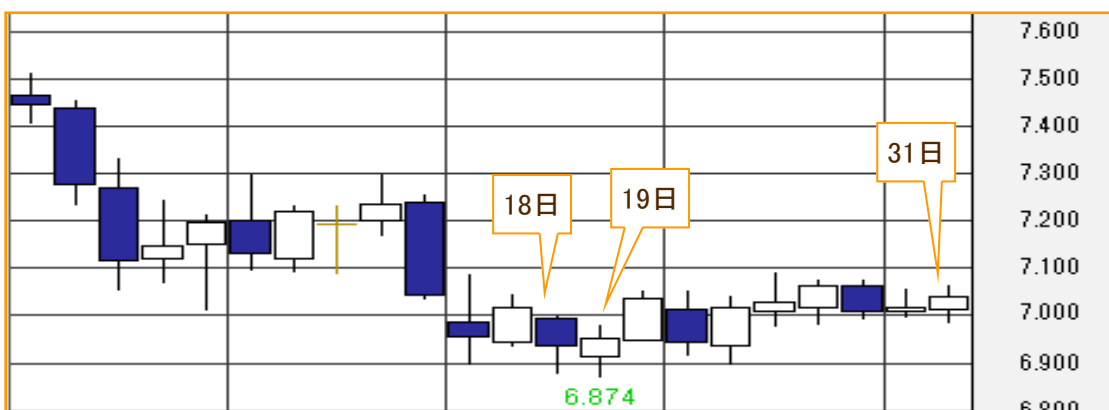
(予想レンジ: 71.500~77.000円)

## ランド/円 5月の推移

# ZAR/JPY

5月のランド/円相場は6.874～7.513円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.7%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

月前半は市場全体の資源国通貨売り、円買いの流れの中で軟調に推移。それに南ア中銀(SARB)の政策金利据え置きを受けたランド売りが重なると、ランド/円は19日に6.874円と、今年1月20日以来の安値をつけた。その後は手掛かり材料に乏しい中、7.00円を挟んでの揉み合いに終始した。



### 四本値

OPEN	7.466
HIGH	7.513
LOW	6.874
CLOSE	7.042

18日	南ア4月消費者物価指数は前年比+6.2%、コア前年比は+5.5%といずれも市場予想通りだったが、その後に発表された南ア3月小売売上高は前年比+2.8%と予想(+3.8%)を下回った。しかしいずれの結果に対しても、ランドの反応は見られなかった。
19日	主要国株価が軟調に推移する中、南アランドは売り優勢となった。また、南ア中銀(SARB)が政策金利の据え置きを発表すると、一部に利上げ予想があった反動で、発表後はランド売り優勢となる場面も見られた。なお、クガニャゴSARB総裁は「中期的なインフレ見通しは改善するも、国内総生産(GDP)成長率は下振れリスクがある」とし、2016年のGDP成長率予想を前年比+0.6%(従来:+0.8%)へ引き下げた。また、2017年を+1.3%、2018年を1.7%とした。
31日	南ア4月貿易収支は4億ランドの黒字と、市場の赤字予想(9億ランドの赤字)に反して良好だったが、前月分が下方修正(29億ランドの黒字→20億ランドの黒字)された。これを受けたランドの動きは特に見られなかった。

## 日 経 平 均

OPEN	16357.10
HIGH	17251.36
LOW	15975.47
CLOSE	17234.98

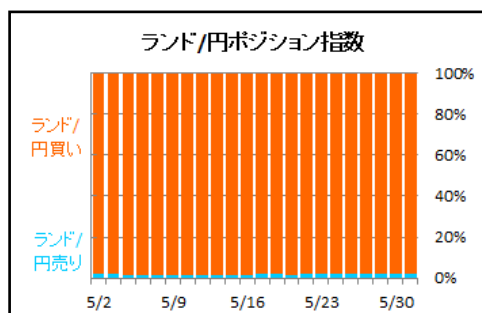
## NYダウ平均

OPEN	17783.78
HIGH	17934.61
LOW	17331.07
CLOSE	17787.20

## N Y 金

OPEN	1293.20
HIGH	1306.00
LOW	1201.50
CLOSE	1217.50

## 5月のポジション動向



## 6月の南アフリカの注目イベント

- ・1-3月期南アGDP(7日)
- ・1-3月期南ア経常収支(14日)
- ・4月南ア小売売上高(15日)
- ・5月南ア消費者物価指数(22日)
- ・5月南ア生産者物価指数(30日)
- ・5月南ア貿易収支(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 6月の見通し

南アフリカを取り巻く環境は引き続き厳しい。物価、財政、信用面で逆風が吹いている上、国内も8月3日の地方選挙に向けて政局が一段と荒れてきている。ズマ大統領は私邸改修への公的資金流用について、最高裁から違憲判決が出ており、野党はこれを追い風にと与党への攻勢を強めている。さらに、紆余曲折の末に就任したゴードン財務相について、国税庁長官時代にスパイ部門設立に関与した疑いで同国検察が調査をしており、国内紙サンデー・タイムズは同財務相が逮捕に直面している(情報源未公開)と報じ、政治的混乱の新たな火種が生じている。こうした状況下で、5月の南アランドは他のクロス円よりも戻りが非常に弱かった。6月も株価が堅調だったり、原油価格が総じて安定推移すれば、円売り主導でランド/円が上昇する可能性があるが、そのパフォーマンスは引き続き他の通貨に比べて低いものであり続けると見る。むしろ、気を付けなければならないのは、6月は米連邦公開市場委員会(FOMC、14-15日)、英国の欧州連合(EU)離脱を問う国民投票(23日)などリスクイベントが複数ある点だ。米国のサプライズ利上げないし7月利上げの強い示唆、英国のEU離脱決定などがあれば、主要国株価に下押し圧力を掛け、リスク回避→ランド/円急落、というシナリオが実現する可能性の方が高いと考えられる。こうしたシナリオが実現した場合のランド/円の下げ幅は、他のクロス円よりも大きなものになると考えられる。(石川)

(予想レンジ: 6.500~7.300円)